

中学生への準備

学習スタイルを作ろう！

「勉強」を生活の中心におく

中学では勉強が難しくなる反面、部活動や学校の行事が楽しくて、ついそちらに熱中したくなるかもしれません。一生懸命に打ち込むことは大切ですが、中学生がまず取り組むことは「勉強」です。「勉強」を学校生活の中心におくことを心がけましょう。そのうえで、何にどう取り組むかを自分で決める。それが中学生活の基本です。

授業の内容は授業中に理解する

勉強、部活動、学校行事と中学生活はとても忙しいものです。限られた時間を有効に使うためには、授業の内容は授業中に理解することが一番。復習するのが必要がなくなれば、その時間を部活動など他の活動にあてることができるからです。とはいえわからない授業に集中するのはつらいもの。家や塾などで予習ができていれば、内容がスムーズに頭に入り、その時・その場での理解につながりやすいでしょう。

自分のことは自分で管理しよう

「自分のことは自分で管理する」が中学生活の原則。たとえば、授業の時間割や提出物を把握しておくこと、配布された学習資料をきちんと保管しておくこと、定期テストの日程や出題範囲をしっかりと覚えておくことなどです。予定や指示が与えられたら、そのために何をすべきか、自分で考えて行動します。

定期テストは中1からしっかりと対策を

中学校では、中間・期末と年に4~5回の定期テストがあります。毎回2週間ぐらいの勉強でテストの準備ができる、ちょうどよいスケジュールになっています。テストがあるとそれに向けて集中して勉強しますよね。その積み重ねが、中学3年間を通しての学力向上に役立つのです。



定期テストの得点は、中学校の成績評価の大部分を占めます。そしてその成績は「内申点」となり、高校入試の合否判定の資料である「調査書」※にのります。中学3年間の内申点で判定する学校もありますから、中1の1学期の中間テストからしっかりと取り組みましょう。

※学習や学校生活の様子を中学校の先生が記入し、入試前に高校へ提出するもの。「内申書」と呼ばれることも。この中で、おもに各教科の成績を点数化したものが「内申点」です。

定期テストを目標にして短いスケジュールで勉強を積み重ねると、無理のない学習スタイルが身につきます。自分なりの勉強のやり方を身につけることは、高校入試だけでなく、大学受験や資格試験などにも生きてくるでしょう。

保護者の方へ

中学は自立と手助けの季節

中学に入ると環境の変化に戸惑い、お子さまがぼーっとしたり、イライラしたりということがあるかもしれません。また交友関係や活動範囲が広がれば、家族より外とのつながりを重視するようにもなるでしょう。保護者の皆さんは寂しさを感じることもあるかもしれませんが、これは成長＝自立の第一歩。干渉しすぎず、温かく見守り、自己管理が上手にできるようになるよう助言をしてあげてください。

高校入試は中1からスタート

定期テストの結果で算出される内申点は、高校入試の合否判定に大きく影響します。特に推薦入試が増えている昨今では、内申点が評価の大きな割合を占めることも。そういう意味では、中1の1学期の中間テストから高校入試は始まっているといえるでしょう。まずは日々の学習習慣を定着させ、一つひとつの定期テストにしっかりと対策していくことが重要です。